※令和４年度以降入学生用

学校番号	２０２

令和５年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「化学基礎」　（実教出版）						
副教材等	新課程版　ネオパルノート化学基礎　（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学の基礎的な知識を押さえながら、その知識が身の回りの自然事象等とどのように関連しているかということを理解してもらいます。そのために実験・観察や画像・映像・模型等を用いてそのイメージを持ちやすいように支援したいと考えています。

２　学習の到達目標

身の周りの物質の性質・構造・反応について、日常生活や身近な現象と関連付けて理解することで、学びに向かう力の育成とともに科学的なものの見方や考え方の基礎と基本的な知識を養う。また実験・観察を通して科学的な興味関心を育成し、実験・観察の基礎的な技能を身に付けるとともに実験結果の整理や考察を通して思考力、判断力、表現力を養う。日常生活のさまざまな場面に化学が活かされているということを実感し、学習を通して得られる科学的な思考の過程を実生活に活かせるようにする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	抽象化されている化学の基本概念や原理・法則を具体的な性質や反応、または日常生活の中の科学的事象と結び付けて理解し、それらを活用する力を身に付けている。また実験・観察などを安全に行うことができ、その基本的な技能を身に付けている。	身の回りも含めた科学的事象に対して、実験・観察などの探究の過程を通して、情報の収集、仮説・計画の設定、実験・観察の結果やデータの分析・考察などの探究の方法を習得するとともに、実験・観察レポートの作成や活動報告発表を行うことで、対象の事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現する力を身に付けている。	科学的事象に対して、主体的に関わろうとしている。またそれらから得た知識や気付きにより、自ら課題を設定し、その課題を科学的に解決しようとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章 物質の構成 2章 物質と化学結合	1章 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子 2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 4節 化学結合と物質	a: 物質の状態変化や原子の構造、性質およびイオンの生成を周期表と関連させて考察でき、理解している。化学結合の違いによる特徴ついて理解している。 b: 物質の三態の性質の違いや原子やイオン特徴、化学結合の違いによる物質の性質の特徴について考察し、表現している。 c: 物質の分類や原子の構造、原子やイオンの結合について、意欲的に探究しようとしている。	定期考査 確認テスト 実験レポート	定期考査 実験レポート 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
2学期	3章 物質の変化	3章 1節 物質量と化学反応式	a: 物質量と化学反応式、酸や塩基について、その基本的な知識とそれらがどのように日常に利用されているかについて理解している。 b: 物質量と化学反応式、酸と塩基の強さとｐＨの関係についての基本的な知識をもとに物質の量的な関係を考察・表現することができる。 c:物質量の概念や化学反応式とその量的関係また酸と塩基について意欲的に探求しようとしている。	定期考査 確認テスト 実験レポート	定期考査 実験レポート 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
3学期		3章 2節 酸と塩基 3節 酸化還元反応	a:酸化還元反応の基本的な知識とそれらがどのように日常に利用されているかについて理解している。 b: 酸化還元反応について、それらを日常生活や社会と関連付けて考察し、表現している。 c: 酸化と還元について関心を持ち、意欲的に探求しようとしている。	定期考査 確認テスト 実験レポート	定期考査 実験レポート 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度